

6 月定例会での一般質問要旨

東日本大震災の被災地
岩手県 大槌町を視察

1. 「防災・減災対策」に公共施設等の老朽化対策について
2. 橋梁の高齢化状況と今後の長寿命化修繕計画について
3. 小中学校の水泳授業の現状と着衣水泳の実施状況は

1 コンクリートの耐用年数は 50～60 年。老朽化した公共施設の早期耐震化が急務。防災・減災対策と併せて建設需要がはかられ地域経済の活性化と雇用の創出が出来る。修繕計画を伺う。

（市長答弁）

災害時に緊急避難場所となる学校、体育館などの特定建築物は 91 棟ある。今年度は耐震設計を 4 棟、改修工事を 5 棟実施する。終了後は 96% の耐震化率となる。早期の 100% 達成に向け取り組む。

2 東日本大震災以来、地震の活動期に入った。当市は月岡断層、櫛形山脈断層帯がある。緊急時に救急車や消防車が橋を渡れない状況とならないよう、橋梁の長寿命化修繕計画を伺う。

（市長答弁）

市が管理している橋梁は 890 橋あり

今年度は修繕計画を策定している。重要度、老朽度等を判断し、社会資本整備総合交付金を活用して、来年度から順次修繕に取り組む。

3 中学校の水泳授業は必修である。プールの無い学校は近隣小学校などのプール利用は可能か。

水の事故は着衣のまま発生する事が多い。着衣での水泳指導の実施状況は。

（教育長答弁）

市内の中学校 10 校はプールが無い、その内 1 校が隣接する市営プールを利用して授業をしている。他は移動手段や時間割などを考慮して実施していない。

着衣水泳は小学校 24 校中 18 校で実施。今後とも児童生徒の発達段階に応じた安全教育を徹底してまいります。

災害廃棄物を新発田市が受け入れを検討している事から 7 月 2 日～3 日に大槌町の災害廃棄物、破碎選別施設等の現地調査を行った。

大槌町役場は津波により破壊され、海岸沿いの民家もコンクリートの基礎部分だけを残し、全て流されていた。

死者数 778 人、行方不明者 475 人、人口の 7.8% が被災した。

岩手県の災害廃棄物は 525 万トン、約 10 年分の処理量に相当。未だに処理の進捗率が 5% にとどまっている。

可燃物と不燃物に分別し破碎処理をしている 2 次仮置き場の木くず前で、空間放射線量を測定した。0.05 マイクロシーベルト（通常の範囲内）であった。



「議会報告会」の開催

5 月 20 日（日）、26 日（土）に「平成 24 年度一般会計予算審査」の概要などを、市内 8 会場で報告。その後、市民との意見交換では災害廃棄物の受け入れについて多くの質疑があった。

←写真は加治地区中央公民館にて、13 名の地域住民の参加があった。

